

日本製紙

New Wave Concert 2016

～若手音楽家たちの、夢の競演～

クラシック音楽を志す県内の学生音楽家たちが、将来を嘱望される若手音楽家と競演する

「日本製紙 New Wave Concert 2016」(静岡新聞社・静岡放送)が10月2日(日)、静岡市駿河区のグランシップ中ホールで開かれます。

本年度の「静岡県学生音楽コンクール」で特別賞を受賞した4人と、注目のヴァイオリニストでオーストリア在住の鈴木舞さん(27)が、新鮮で感性豊かな演奏を披露します。

ゲスト出演する鈴木舞さんにヴァイオリンとの出会いや、海外で磨かれた音楽観について聞きました。(企画・制作/静岡新聞社事務局)

ヴァイオリニスト 鈴木舞さんに聞く 幼い勘違いから ヴァイオリンの道へ

「ヴァイオリンを始めたきっかけを語ってください。」
小さい頃ピアノ教室に通っていましたが、私はどうしてもピアノが好きになれませんでした。そんな時、テレビでチェロを弾いているのを見て、「かっこいい!」と目ぼれし、すぐに母親に「ヴァイオリンが習いたい」と頼み込みました。幼い私にはチェロのことをヴァイオリンと呼ぶと信じ込んでいたのです。

「そんな勘違いから、チェロではなくヴァイオリンを始めるとなりました。」
小さい頃は、自分が演奏すると周りから褒められることがうれしくて続けていました。
コンクールで思うような結果が残せなかったときなど、くじけそうになることもありましたが、それ以上に音楽、そしてヴァイオリンが大好きで、音楽を奏でる喜びをいつも感じていたため、音楽を学ばずにはいられなかった。その音楽に助けられてきました。さらに、いつも上手になつたね!良い音だね!とほめてくれた祖母の存在が大きなきっかけになりました。

信念曲げずに取り組む

「子供時代の思い出を教えてください。」
始めたばかりの頃は、音を出したり、リズムをつくらしたりするのがとにかく楽しく、遊びのような感覚で弾いていたの覚えています。幼い私は、とても頑固で、音楽以外でもやりたくないことは、こらえたり、やりたくないことは絶対にやらない、というような性格でした。

小学生の頃、レッスンで教えてもらったことでも納得しかなかったり、気がいらなかったりすると、先生が書き込んだ楽譜の指示を家に戻ってからこっそり消しゴムで消していました。
東京芸大付属高に入ると、数学や英語などの基本的な教科科目の授業だけでなく、ソルフェージュやオーケストラ、室内楽などの音楽の授業に加え、個人レッスンも受けていました。

音楽への向き合い方学ぶ

「海外生活で学んだことは何ですか。」
留学当初は、住む場所を決めることすら一大事でした。最初に留学したスイスのローザンヌは皆し部屋が少なく、一部屋に何人もが申し込んで、その中から不動産屋さんが入居希望者を選ぶシステムで、自分に取れない学生はとて不利な状況、決まるまで数か月かかりました。生活の全てを自分で顧みなければならぬので、生きる力も付いてきたと思います。

「学び始めて一番衝撃を受けたのは、技術の差はあるものの、周りの学生たちがそれぞれ個性豊かな音楽や表現を持っていることでした。」
ヨーロッパは音楽づくりのアプローチの仕方が日本と違って感じます。テクニクを学んだ後、表現方法を学ぶ日本に対して、こちらではまず、どう表現したいかという意思を明確に持ち、その意思を実現するためのどのようなテクニクが必要か考え習得していきます。
また、音楽ファンにも大人に育てられています。ファンが音楽家にも求めるもの、日本とは違いま

「すこしではあるが、その音楽家ごとのような音楽で、何を表現したいのかを感じ取ることを重視しています。さらに、さまざまなバックグラウンドや国籍の人の交流も、音楽づくりの糧となっています。例えばロシア人は疲れ知らずで、パワフル。そして何があってもよくよく悩まず、これも人生と大きな気持ちでドンと構える人たちです。それと、イコスキーやプロコフィエフなどの音楽を勉強するのにも、イコスキーやプロコフィエフよりも、地元を活動拠点にしている一流のアーティストによる音楽を聴き、そこから得たものが一番自分自身を成長させていると思います。彼らも音楽を自分の「言葉」にしていることを肌感として、テクニクだけではなく、心で奏でる音楽だけが人の心に触れるのだと実感しました。」

すべての体験が 音楽を豊かにする

「さらに面白い演奏へのアドバイスはありますか。」
毎日の生活、経験が全て音楽に結びつきます。家にもこもって練習をするばかりではなく、たぐさの人生経験、心を動かされる体験をしなくてはならない。さまざまな質の高い音楽を聴くことはもちろんの

名曲を気軽に楽しんで

「演奏を難しみにしているみなさんにメッセージをお願いします。」
祖父が暮らした富士市は私にとっても音楽のある場所です。ただ今年の4月に、清水マリアナートで静岡交響楽団と「アイコフスキー」の協奏曲を演奏させていただいたこともあり、静岡には何かと縁を感じています。

皆さんはヴァイオリンの魅力を感じていただければよい。今回のコンサートでは名曲を多く取り上げ、かつバラエティに富んだプログラムを組みました。
ピアノの福原彩美さんは昨年からたびたび共演していますが、ヴァイオリンが合いとして演奏しやすいため、ぜひ「お楽しみに」お楽しみください。また、いろいろあります。



Mai Suzuki

10/2 (日) 13:30開演 (13:00開場) 大場無料

- 1.1 第37回静岡県学生音楽コンクール特別賞受賞者による演奏 (ピアノ、弦楽、管楽、声楽の各部門1名)
- 1.2 鈴木舞ヴァイオリニスト
序奏とロンド・カプリチオソープ/ツイゴイネルワイゼンなどを予定
- 主催/静岡新聞社・静岡放送 ■協賛/日本製紙株式会社
- 問い合わせ/静岡新聞社・静岡放送 事業部 Tel.054-281-9010 (平日9:00~17:00)

★抽選でヘア400組に入場整理券をお送りします
申し込み方法:郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記して下記まで申し込みください。
はがき 〒442-8670 (住所不要) 静岡新聞SBS「日本製紙 New Wave Concert 2016」係
メール kikaku@shizuokaonline.com (メールの件名には必ず「日本製紙」と記入してください)
締切:9月15日(木)必着 ※開催1週間前までに、入場整理券の発送をもって発表に代えさせていただきます。落選の連絡はいたしません。※お送りいただいた個人情報には本企画のみに使用します。

静岡県学生音楽コンクール

県内の若き才能あふれる音楽家たちの発掘、育成を目的に、小学生から高校生を対象に毎年開催されるコンクールで、今年で37回を数えます。ピアノ、弦楽、管楽、声楽の4部門があり、部門別に課題曲に挑みます。今年の応募者は全部門で220人、本選は8月20日(土)にグランシップで行われ、各部門の最優秀となる特別賞に下記の4人が選ばれました。「日本製紙 New Wave Concert 2016」ではこの4人の皆さんがその実力を発揮し、最高の演奏を披露する舞台となります。

ピアノ部門 中田朝陽 8A(2位準中2)	弦楽部門 長坂 賢 8A(3位準中2準中3)
管楽部門 松本 心 8A(2位中1)	声楽部門 杉本 奏音 8A(2位準中3)

主催/静岡県音楽コンクール委員会
協賛/静岡県教育委員会、静岡県文化協会